

【定量目標】

項目		指標	自主行動計画における到達目標	内容	指標(詳細)	2013年度	2019年度	2020年度	2021年度	対13年比	対20年比	
1	地球温暖化対策	生産段階のCO <sub>2</sub> 削減(定量目標)	CO <sub>2</sub> 排出量	2030年度までに2013年度比46%削減する(パリ協定の日本目標同等)	生産段階(工場)のCO <sub>2</sub> 排出量総量	生産工場のCO <sub>2</sub> 排出量総量(t)	829,479	654,931	596,391	597,942	72.1%	100.3%
	2	循環型社会の形成	産業廃棄物の削減(定量目標)	総排出量	2030年度までに2013年度比40%削減する(過去からの削減傾向値より)	生産段階(工場)の産廃排出量総量(t)	68,275	44,782	39,172	41,700	61.1%	106.5%
3	化学物質対策	VOC排出量の削減(定量目標)	VOC排出量	2030年度までに2013年度比50%削減する	VOC4種の排出量(t)	トルエン	49.30	37.18	28.26	31.35	63.6%	110.9%
						キシレン	45.60	35.25	28.91	33.60	73.7%	116.2%
						エチルベンゼン	18.50	17.36	13.86	15.34	82.9%	110.6%
						ジクロロメタン	80.30	25.20	5.10	0.10	0.1%	2.0%

※1.生産段階のCO<sub>2</sub>削減(定量目標)の自主行動計画における到達目標は、2023年4月20日より「2030年度までに2013年度比46%削減する」に変更

【定性目標】

項目		指標	自主行動計画における到達目標	内容	指標(詳細)	2013年度	2019年度	2020年度	2021年度(会員企業の活動例)
1	地球温暖化対策	輸送段階のCO <sub>2</sub> 削減(定性目標)	輸送効率改善及び省燃費運転を協働し推進する	製品輸送委託企業と協働し輸送効率改善及び省燃費運転の活動を進める			<ul style="list-style-type: none"> <li>各物流センターとともに積載効率の改善を進めた。</li> <li>総合拠点化および混載輸送による輸送車両の低減</li> <li>モーダルシフト(陸送から船舶および鉄道利用)による自走区間の短縮</li> <li>国が推進する「ホワイト物流」促進運動に賛同し自主行動宣言を作成(商品搬出時の積載時間短縮、配送効率向上、積載効率向上等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各物流センターとともに積載効率の改善を進めた。</li> <li>国が推進する「ホワイト物流」促進運動に賛同し自主行動宣言を作成(パレット等の活用、発荷主からの入手か情報等の事前提供、集荷先や 配送先の集約、納品日の集約、異常気象時の運行中止・中断、車両の大型化 等)</li> <li>賞切便積み合せによる、少量物件の混載輸送化推進</li> <li>統合、再編、集約配送による効率化(一次・二次・地場輸送)</li> <li>建材他社との共同配送の拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他社と物流を共同利用する「コンテナラウンドユース」の実施</li> <li>国が推進する「ホワイト物流」促進運動に賛同し自主行動宣言を作成(パレット等の活用、発荷主からの入手か情報等の事前提供、集荷先や配送先の集約、納品日の集約、異常気象時の運行中止・中断、車両の大型化 等)</li> <li>賞切便積み合せによる、少量物件の混載輸送化推進</li> <li>統合、再編、集約配送による効率化(一次・二次・地場輸送)</li> <li>建材他社との共同配送の拡大</li> </ul>
		開発設計段階のCO <sub>2</sub> 削減(定性目標)	LCA評価手法を業界内に広めCO <sub>2</sub> 削減製品の開発に貢献する	エコリーフのPCRを協会内企業へ説明し環境配慮型商品開発を援助する説明会など		<ul style="list-style-type: none"> <li>ビル用サッシのエコリーフを継続更新した。</li> <li>新規開発商品の場合、環境配慮設計チェックリストを用いてライフサイクル全般の環境負荷低減に努めている。(自社内)</li> <li>エコリーフ認定取得(1件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビル用サッシのエコリーフを継続更新した。</li> <li>エコリーフ認定商品に関する社内説明会開催による認知度向上</li> <li>高断熱窓の使用によるCO<sub>2</sub>削減貢献量の算出・見える化</li> <li>新規開発商品の場合、環境配慮設計チェックリストを用いてライフサイクル全般の環境負荷低減(自社内)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビル用サッシのエコリーフを継続更新</li> <li>エコリーフ認定商品に関する社内説明会開催による認知度向上</li> <li>高断熱窓の使用によるCO<sub>2</sub>削減貢献量の算出・見える化</li> <li>新規開発商品の場合、環境配慮設計チェックリストを用いてライフサイクル全般の環境負荷低減(自社内)</li> </ul>	
2	循環型社会の形成	最終処分量の削減(定性目標)	埋立て及び焼却となる産業廃棄物のゼロ化に貢献する	ゼロエミッションへの取り組み内容を説明			<ul style="list-style-type: none"> <li>サッシの樹脂廃材の社内再利用化を推進した。</li> <li>皮膜工程の析出槽運用改善によるアルカリ汚泥の削減</li> <li>廃棄物の分別回収、排出抑制、再資源化(再資源化率100%)、有価物化の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サッシの樹脂廃材の社内再利用化を推進した。</li> <li>※ゼロエミッション達成(100%)</li> <li>廃棄物の分別回収、排出抑制、有価物化</li> <li>PVC投入資材の削減と再生材の活用</li> <li>RPF製造設備導入による廃プラ・紙くずの有価物化</li> <li>製品洗浄廃液の再利用による産業廃棄物の削減</li> <li>原料に占めるアルミリサイクル材割合の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サッシの樹脂廃材の社内再利用化を推進した。</li> <li>※ゼロエミッション達成(100%)</li> <li>廃棄物の分別回収、排出抑制、有価物化</li> <li>PVC投入資材の削減と再生材の活用</li> <li>製品洗浄廃液の再利用による産業廃棄物の削減</li> <li>原料に占めるアルミリサイクル材割合の向上</li> </ul>
		プラスチック系梱包資材の削減(定量定性目標)	プラスチック系の梱包資材の削減と情報収集に取り組む	取り組み内容を説明バックデータで梱包資材使用量把握		<ul style="list-style-type: none"> <li>プラスチック削減に向けた会議体を設け、活動を進めた。</li> <li>特定客先向け商品の梱包材をリユース可能な資材に変更</li> <li>梱包資材のリユース化(通箱)、省梱包仕様様の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラスチック系梱包資材の削減に向けた会議体により、活動の横展開を進めた。</li> <li>包装仕様・材料見直し・簡易化</li> <li>リサイクル包装資材の採用</li> <li>特定客先向け商品の梱包材をリユース可能な資材に変更</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品輸送用のストレッチフィルムの削減・再利用・リサイクルを推進や紙製の緩衝材への切り替え実施。</li> <li>包装仕様・材料見直し</li> <li>包装の簡易化</li> <li>通箱、リターンナブルできる包装形態へ切り替え</li> <li>リサイクル包装資材の採用</li> <li>特定客先向け商品の梱包材をリユース可能な資材に変更</li> <li>梱包仕様や購入単位の見直し、梱包資材のリユース、等</li> </ul>	
3	化学物質対策	製品含有の化学物質削減(定性目標)	製品含有の有害化学物質の適正な管理と削減に取り組む	取り組み内容を説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>製品含有化学物質管理の会議体を設け、活動を進めた。</li> <li>化学物質部会にて、全社的な製品含有化学物質管理(CMS)業務の定着化と化学物質対策を推進</li> <li>調達先の協業度評価実施、商品開発時の製品含有化学物質管理の推進、既存商品の有害化学物質代替化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品含有化学物質管理の会議体により、グリーン調達ガイドラインを制定し活動を進めた。</li> <li>調達先の協業度評価実施</li> <li>サプライヤーへの有害化学物質削減に関するヒアリング実施</li> <li>新規商品・既存商品の六価クロムフリー化着手</li> <li>化学物質部会にて、全社的な製品含有化学物質管理(CMS)業務の定着化と化学物質対策を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品含有化学物質管理の会議体により、グリーン調達ガイドラインを制定し活動を推進</li> <li>調達先の協業度評価実施</li> <li>サプライヤーへの有害化学物質削減に関するヒアリング実施</li> <li>新規商品・既存商品の六価クロムフリー化推進</li> <li>化学物質部会にて、全社的な製品含有化学物質管理(CMS)業務の定着化と化学物質対策を推進</li> </ul>	
4	生物多様性水資源対策	水資源・生物多様性の保全(定性目標)	水資源及び生物多様性の保全に寄与する活動に取り組む	取り組み内容を説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>森林保全のNPO法人の活動に参画した。</li> <li>地元自治体が所有する山林で森づくり活動を実施(年1回。7月:下草刈)</li> <li>製造拠点における独自アンケートによる水リスク評価の実施</li> <li>工場排水の節水、効率化による水使用量の削減</li> <li>植樹活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県による絶滅危惧種(植物)の回復計画に協力(苗の育成と管理)</li> <li>主要拠点の緑化活動実施</li> <li>海ごみゼロウィークへの賛同と製造・営業拠点の清掃活動実施</li> <li>国内外主要製造拠点における独自アンケートによる水リスク評価の実施</li> <li>製造拠点での水使用量の削減</li> <li>製造拠点での水使用量の削減</li> <li>地元自治体が所有する山林で森づくり活動を実施(年1回。4月:つる切り)</li> <li>県による絶滅危惧種(植物)の回復計画に協力(苗の育成と管理)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製造プロセスで水を使用する生産拠点における水リスク調査を実施</li> <li>主要拠点の緑化活動実施</li> <li>海ごみゼロウィークへの賛同と製造・営業拠点の清掃活動実施</li> <li>国内外主要製造拠点における独自アンケートによる水リスク評価の実施</li> <li>製造拠点での水使用量の削減</li> <li>製造拠点での水使用量の削減</li> <li>地元自治体が所有する山林で森づくり活動を実施(年1回。4月:つる切り)</li> <li>県による絶滅危惧種(植物)の回復計画に協力(苗の育成と管理)</li> </ul>	
5	コミュニケーション	会員企業への情報発信	環境情報を発信する(化学物質・生物多様性等に関する情報)	説明会、ニュース発信など		<p>環境セミナーを計画 2020年3月23日開催 「企業におけるSDGsの取り組み」 講師:環境省 大臣官房総合政策課 民間活動支援室 長谷川 学室長補佐 ※新型コロナウイルス感染症による影響で、開催中止 2020年度実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会、セミナーの開催</li> <li>テーマ『新たな時代におけるSDGsの取り組み ～コロナ禍における実践～』として、環境省より専門家をお呼びして、12月 日にオンラインにて開催。200名を超える参加者あり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境省をはじめ関係省庁が発信する環境情報をホームページ、メール等で案内</li> </ul>	